

令和6年度 和歌山県地域と学校の連携・協働体制推進事業に関する報告

課題	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標	目標の達成度を測る指標	本年度の目標値	本年度の実績値	目標の達成度に関する評価・分析
学校の学習はカリキュラムに沿って行う必要があるため、多様な体験学習を取り入れることが難しい。	年間43回放課後等子ども教室を開催し、描画や工作といった創作活動やアウトドア体験等内容の充実を図る。	体験活動に児童が興味・関心を高め、特技を活かそうとしている。	教室の満足度を5段階で評価するうち、5をつけた回答の割合。(年度末にアンケートを実施)	80%	80%	・様々な内容の教室を実施し、今年度は参加人数が増加した。満足度は高いがさらに充実した教室創りを目指す。
集中力を持続できない児童が増加している。学校の授業等でじっくりと時間をとって書き方を習う経験も不足している。	集中して机に向かう力を養う場として硬筆教室を開講し、指導者が時間をかけ丁寧に書き方指導を行う。	書き方を丁寧に練習することにより、児童が自然に集中力を高めている。	教室に通ったことによって、以前と比べて集中力がついたと回答した児童の割合。(年度末にアンケートを実施)	80%	30%	人手不足により、補助スタッフによる見回りが不十分だった。「集中して静かに書く」を定着させるために座席の配置の工夫、補助スタッフの見回りを実施したい。来年度も事業を実施し、集中力の定着を比較していきたい。
子ども達が自分で生活する力や協調性を養うことが望ましいが、子ども達だけで共同生活を行う機会が学校での学習だけでは少ない。	通学合宿を継続して実施し、農業体験や金融教室等様々なプログラムを企画する。	参加児童が生活力や協調性を身につける。	通学合宿の終了後にアンケートをとり、その中で以前より生活力が身についたと回答した児童の割合。	60%	100%	アンケート結果で目標を大きく上回る100%を達成した。地域ボランティアに協力をいただき食事を作ったり、もらい風呂を実施した。家庭から離れ、生活をする大変さや家族のありがたさを学ぶことが出来る貴重な体験であった。今年度、生馬通学合宿では防災学習の一環として、災害用段ボールベットを寝床とした。自ら組み立て・片づけることをし実践練習で学びを深めた。来年度も実施したい。